

平成29年8月16日

平成29年度病虫害発生予報第5号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稲	いもち病（穂いもち）	並	並
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	やや少	やや少
	トビイロウンカ（防除情報第10号継続）	並	やや多
	コブノメイガ	少	少
	穂吸汁性カメムシ類（防除情報第11号）	並	並
大豆	ハスモンヨトウ	やや少	並
いちご （育苗床）	うどんこ病	並	並
	炭疽病（ <i>Glomerella cingulata</i> ） （防除情報第9号継続）	やや多	やや多
	輪斑病 ハダニ類（防除情報第12号）	並 やや多	並 やや多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病・斑点病） アザミウマ類	やや少 並	並 並
かんきつ	かいよう病	並	並
	黒点病	やや少	並
	ミカンハダニ	やや少	やや少
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	やや多	やや多
果樹共通	カメムシ類（技術情報第1号）	やや多	やや多
茶	炭疽病	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並
	チャノコカクモンハマキ	並	並
	チャノホソガ	並	並
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並
	クワシロカイガラムシ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

普通期水稲

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 発生状況等

- ア 8月上旬の巡回調査（86筆）の結果、葉いもちの発病株率は0.5%（1.3%）、発生圃場率は22.1%（16.7%）であった。
- イ 8月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発病株率は51.0%（2.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉いもちの発生が認められる圃場では穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

イ 追肥を行う場合は、過剰にならないよう適正量を施肥する。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(86筆)の結果、発病株率は0.8%(0.8%)、発生圃場率は10.5%(15.6%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は11.5%(7.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(86筆)の結果、発病株率は0.0%(0.2%)、発生圃場率は1.2%(20.3%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生は認めなかった(発病株率 0.1%)。

ウ 8月上旬の巡回調査(86筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.3頭)、発生圃場率は66.3%(66.5%)であった。

エ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.6頭(0.3頭)、寄生株率は41.0%(20.3%)であった。

4. トビイロウンカ

平成29年8月10日付け、**病害虫発生予察防除情報第10号**を継続。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(86筆)の結果、食害株率は0.0%(6.6%)、発生圃場率は1.2%(52.7%)であった。

イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は10.0%(28.0%)であった。

6. 穂吸汁性カメムシ類

平成29年8月16日付け、**病害虫発生予察防除情報第11号**による。

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 8月上旬の巡回調査(15筆)の結果、幼虫の寄生株率は0.8%(4.1%)、株当たり虫数は0.1頭(0.2頭)、白変葉発生圃場率は13.3%(53.6%)であった。
- イ 8月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、幼虫の寄生は認めなかった(寄生株率1.4%、株当たり虫数0.1頭)。
- ウ フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は、平年よりやや少なく推移している(図)。
- エ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。

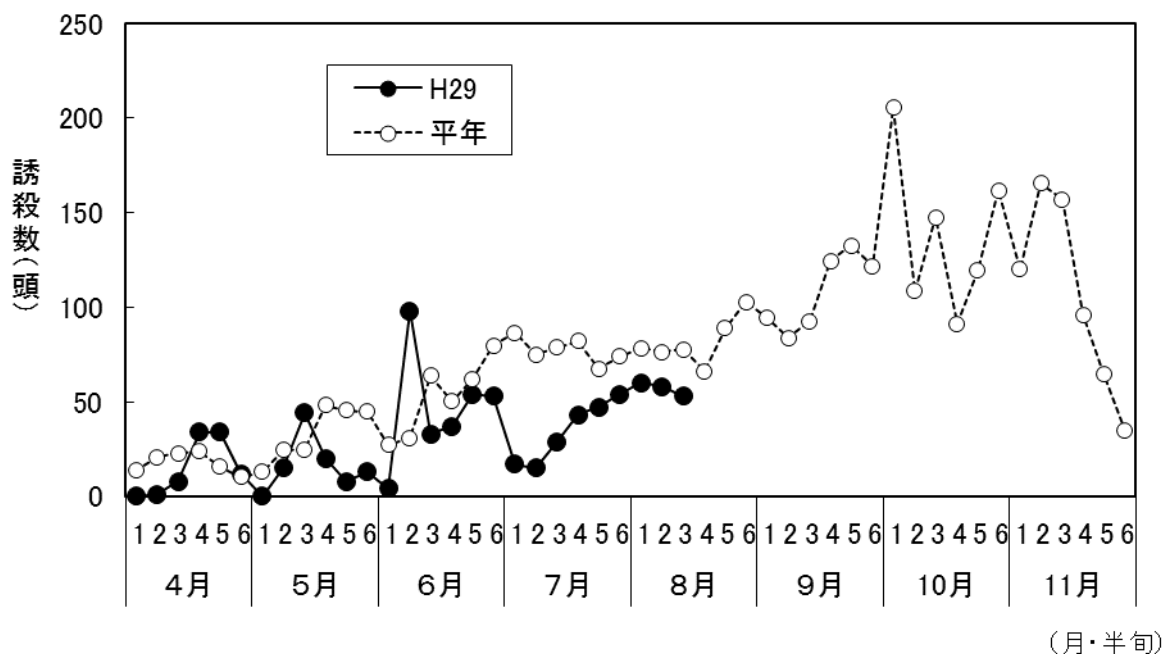


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町)
平年:H19~28年の平均値(最大・最小値除く)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたなら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.05%、発生圃場率1.9%)。

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

平成29年8月7日付け**病害虫発生予察防除情報第9号**を継続。

なお、その後の発生状況等については以下のとおりである。

(1) 発生状況等

- ア 8月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発病株率は0.3%（0.2%）、発生圃場率は15.2%（7.7%）であった。
- イ 向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並または多い見込みであり、本病の感染に好適である。

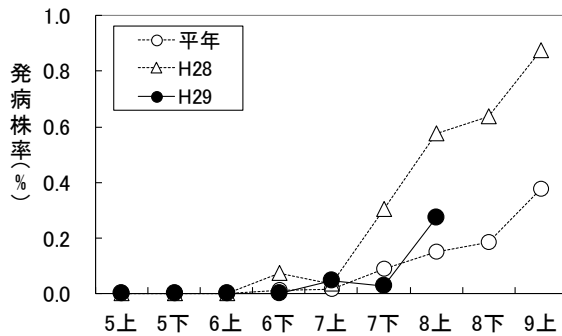


図 炭疽病(*G. cingulata*) 発病株率の推移

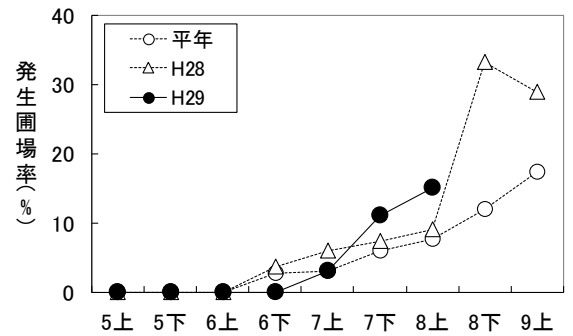


図 炭疽病(*G. cingulata*) 発生圃場率の推移

3. 輪斑病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（33筆）の結果、発病株率は12.9%（11.0%）、発生圃場率は57.6%（49.2%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

摘葉した被害葉は伝染源となるので圃場外に持ち出し処分する。

4. ハダニ類

平成29年8月16日付け**病害虫発生予察防除情報第12号**による。

アスパラガス

1. 斑点性病害（褐斑病・斑点病）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（12筆）の結果、発病側枝率は1.3%（3.3%）、発生圃場率は25.0%（37.8%）であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並または多い見込みであり、本病の感染に好適である。

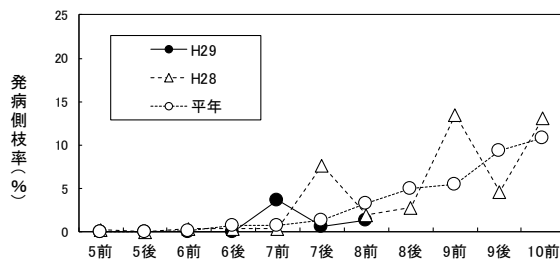


図 斑点性病害 発病側枝率の推移

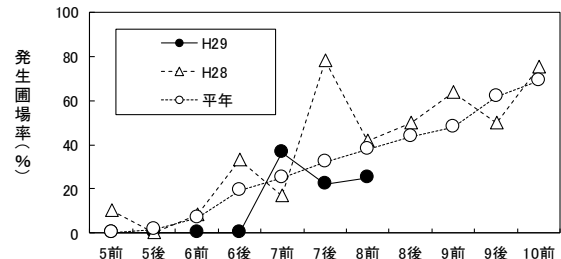


図 斑点性病害 発生圃場率の推移

2. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は11.6頭(14.6頭)、発生圃場率は66.3%(70.0%)であった。

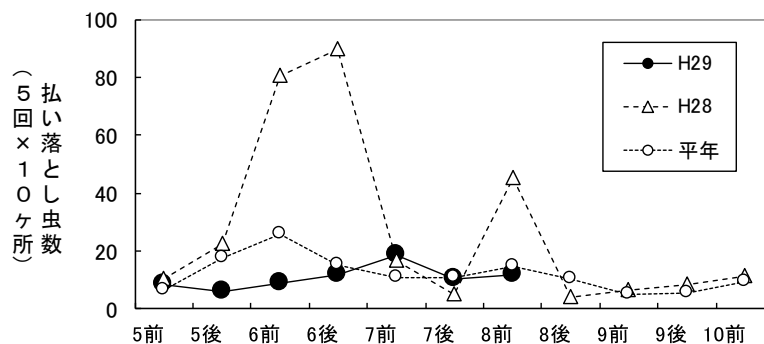


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
※払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は11.1%(10.9%)であった。発病果率は0.0%(0.2%)、発生圃場率は2.8%(7.9%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病果率は4.6%(8.2%)、発生圃場率は13.9%(46.6%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並か高い見込みであり、本病の感染に好適である。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は8.6%(13.6%)、発生圃場率は38.9%(60.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 盛夏期を過ぎて気温が低下してくると発生が増加するので、発生初期に防除する。

イ 薬剤感受性の低下を防ぐために、同一薬剤は連用しない。

ウ 薬剤感受性が低下している場合があるので、効果の高い薬剤を選定する。具体的データについては、病害虫防除所ホームページのかんきつのミカンハダニ薬剤感受性検定成績書参照。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は4.5%(1.4%)、発生圃場率は47.2%(19.8%)であった。果頂部の被害は認められなかった(被害果率 0.5%、発生圃場率 8.5%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、7月下旬以降、平年より少なくな推移している(図)。

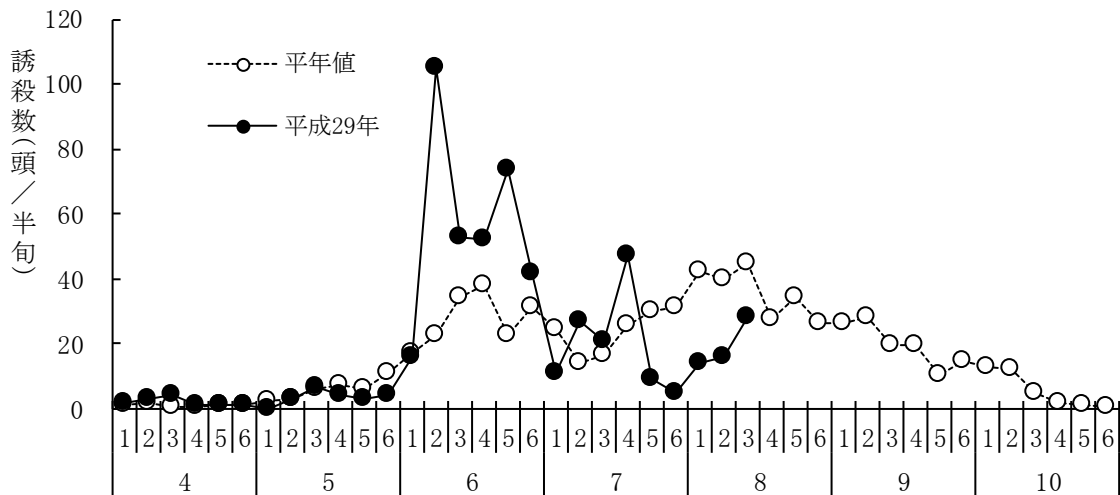


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半旬)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 下表に示した発生ピーク予測日を参考にして適期に防除する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	大瀬戸	口之津	平戸
第6世代	8/18	8/18	8/29	8/22	8/31
〃 (平年)	8/22	8/29	9/2	8/23	9/9
〃 (前年)	8/13	8/14	8/24	8/16	8/27
第7世代	9/4	9/5	9/18	9/8	9/21
〃 (平年)	9/8	9/17	9/23	9/9	10/2
〃 (前年)	8/30	8/31	9/14	9/2	9/18
第8世代	9/24	9/26	10/14	9/29	10/20
〃 (平年)	9/29	10/13	10/21	9/30	11/8
〃 (前年)	9/18	9/19	10/6	9/22	10/12
標高(m)	27	4	43	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2017年8月14日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では予測発生ピーク日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（10筆）の結果、発生を認めなかった（発病枝葉率1.3%、発生圃場率36.3%）。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（10筆）の結果、寄生枝葉率0.2%（0.2%）、発生圃場率10.0%（5.0%）であった。

イ フェロモントラップ（諫早市）の誘殺量は、7月以降、多く推移している（図）。

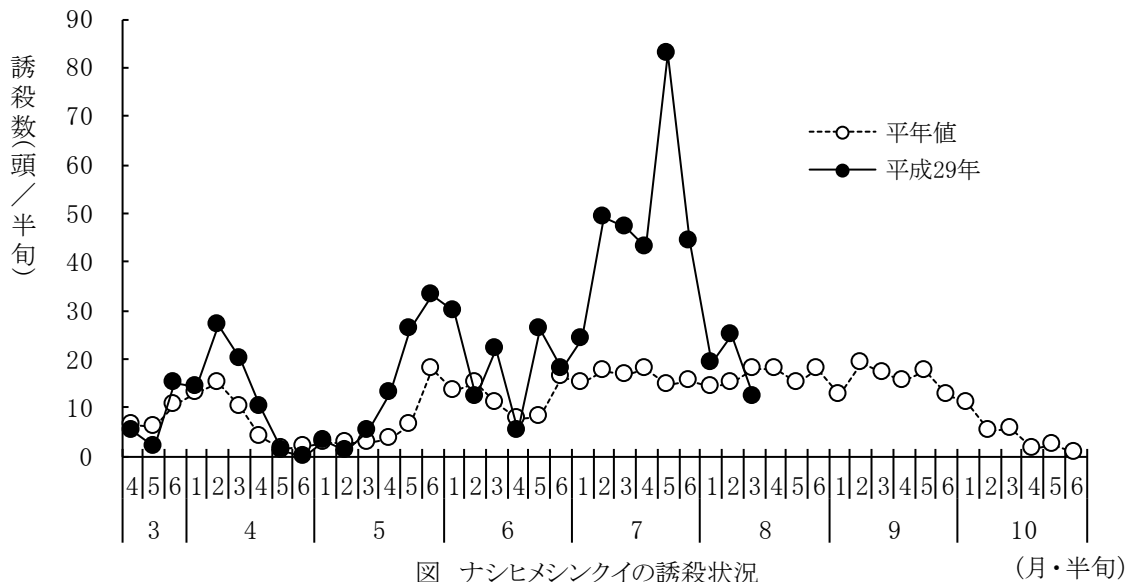


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況 (諫早市小船越町:フェロモントラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

せん定跡に食入しやすいので、せん定や芽かき後には必ず防除する。

果樹共通

1. カメムシ類

平成29年8月16日付け、**病害虫発生予察技術情報第1号**による。

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡あたり発病葉数は2.1枚（3.8枚）、発生圃場率は45.0%（51.3%）であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は22.0頭（27.6頭）、発生圃場率は100%（94.4%）であった。

3. チャノココクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、発生を認めなかった（1㎡当たり巻葉数0.2枚、発生圃場率13.9%）。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

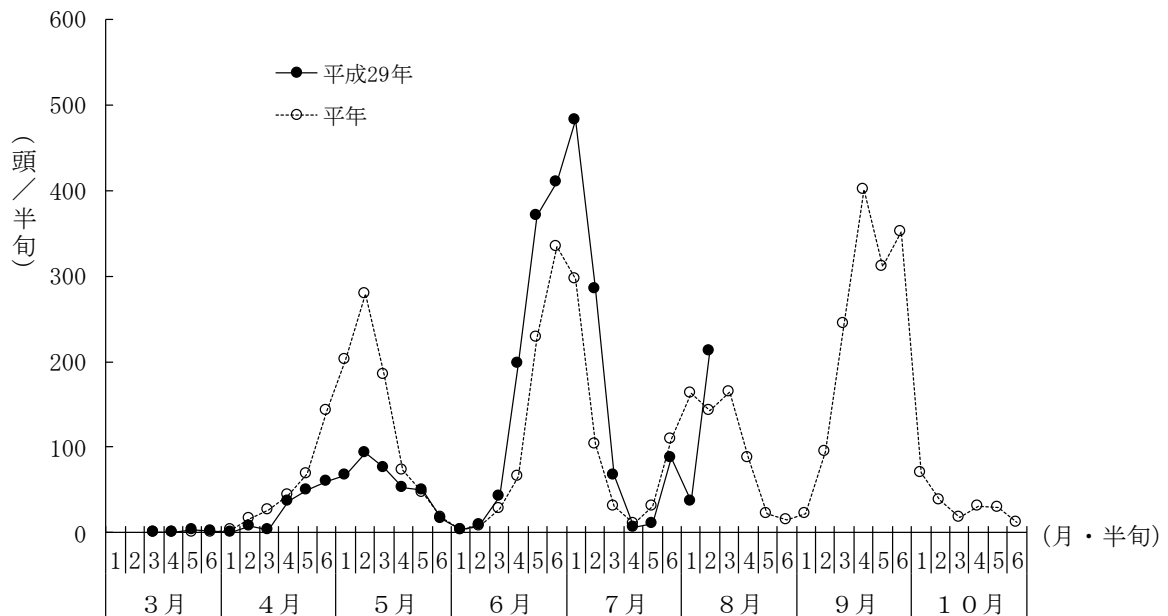


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚（0.2枚）、発生圃場率は10.0%（14.2%）であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量（農林技術開発センター茶業研究室調査）は平年並で推移している（図）。

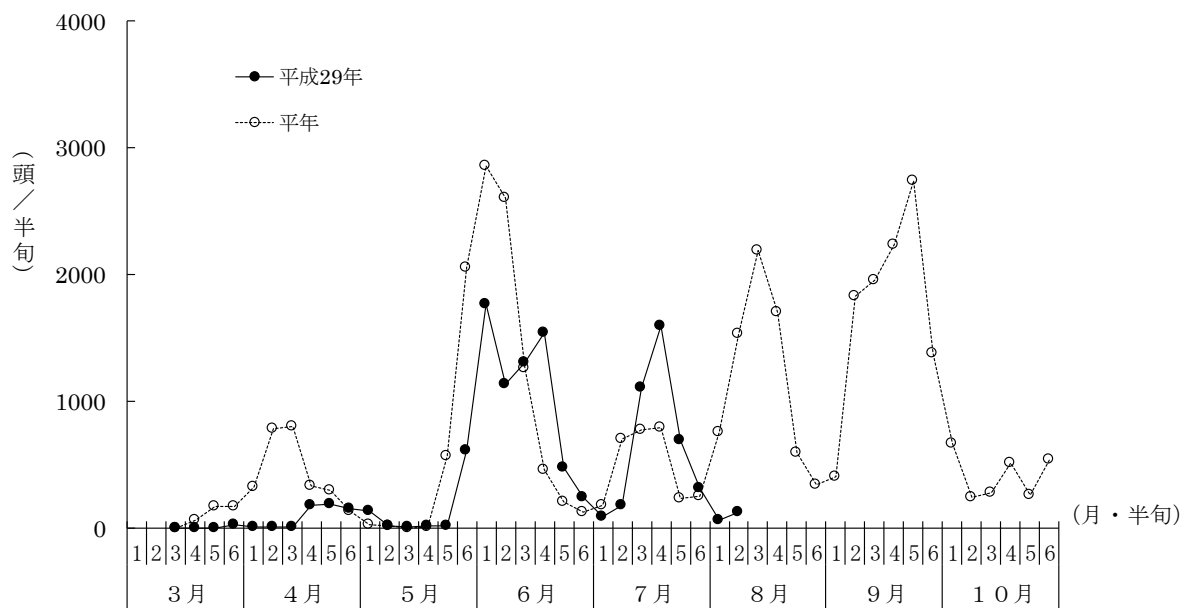


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生葉率は0.3%（0.7%）、発生圃場率は10.0%（18.9%）であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は2.5頭（3.4頭）、発生圃場率は70.0%（57.0%）であった。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

8月上旬の巡回調査（20筆）の結果、寄生株率は15.0%（7.4%）、発生圃場率は50.0%（38.1%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が多い圃場では、第3世代の防除を行う。

【参考】

(平成29年8月10日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

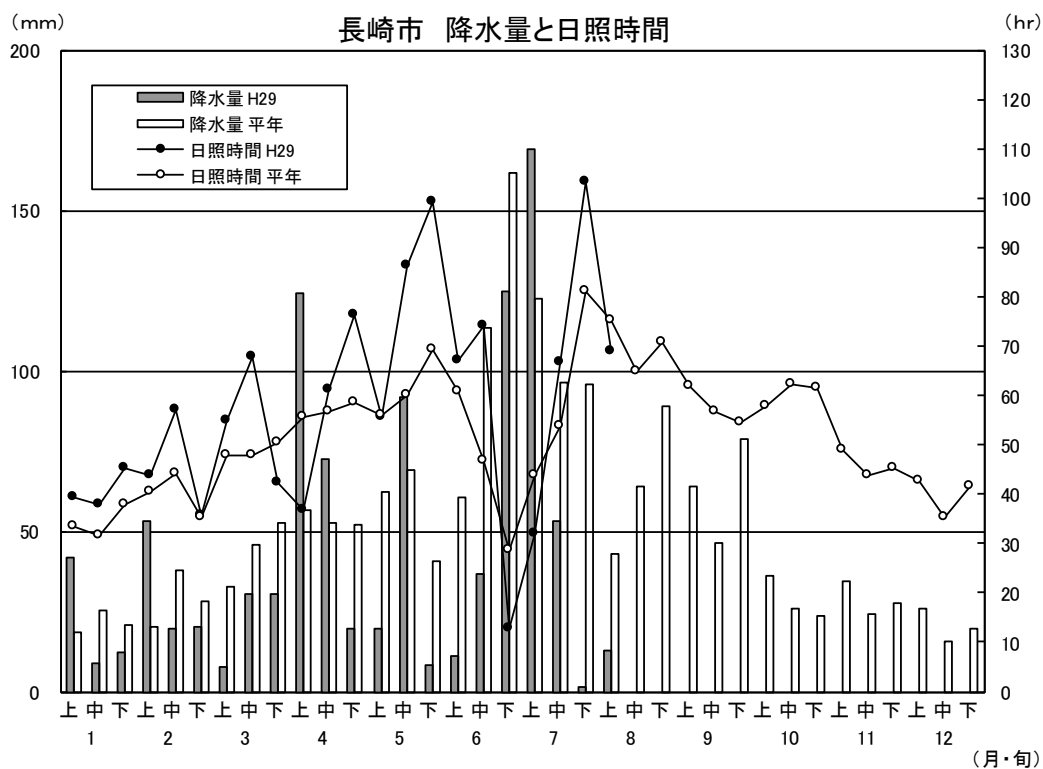
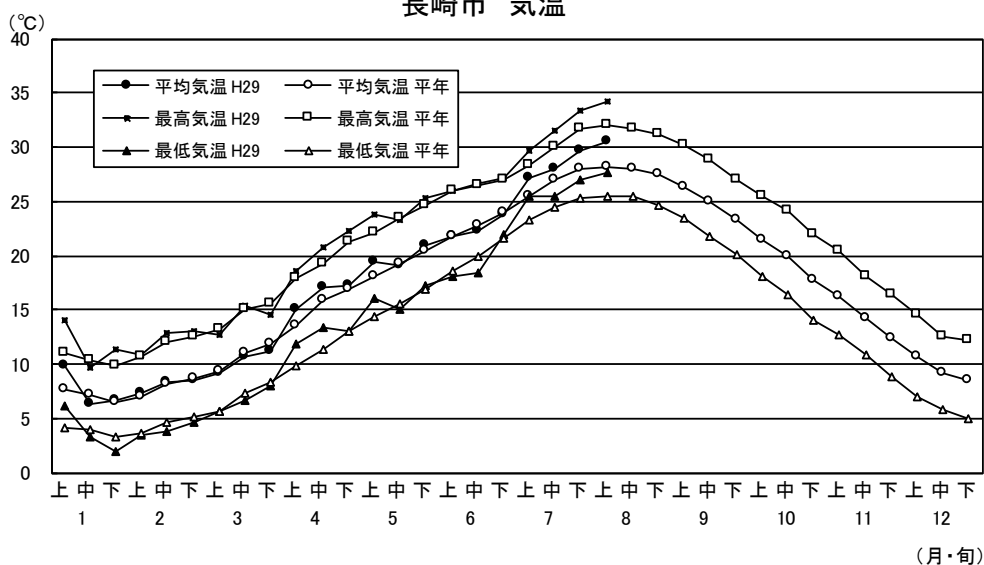
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

※予報対象地域：九州北部地域

平成29年の気象経過 (長崎地方気象台)

長崎市 気温



○6月1日から8月31日までの3か月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

農薬を使用する機会が増える時期です。事故を防ぐため、特に以下のことに気をつけましょう。

- ・農薬を使う前にはラベルに記載されている注意事項をよく読み、使用方法や使用上の注意を守りましょう。
- ・クロルピクリン剤等の土壌くん蒸剤を使用するときは、揮散した薬剤が周辺に影響を与えないよう風向き等に十分注意するとともに、直ちに適正な厚さの資材を用いて被覆を完全に行いましょう。また、使用後は、ほ場に立て札を立てる等により、関係者以外の者の立入りを防ぐようにしましょう。
- ・散布の際には、周辺への飛散に気を付け、周囲の作物、住宅、家畜、河川などへの影響に注意しましょう。
- ・散布後は十分に器具を洗浄し、農薬の保管場所には必ず鍵をかける等適切に管理し、誤飲・誤食を防止しましょう。

○長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県病害虫防除所ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

○この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027

